

(別添様式)

平成30年度「学校・地域パートナーシップ事業」実施報告書

| 市町村名 | 学校名等 | 校長名 |
|------|--------|------|
| 生駒市 | 生駒北小学校 | 森 能伸 |

《地域学校協働活動》

1 学校、地域、児童生徒（園児）の実態

児童数 163 名、1 学年のみ 2 学級で他の学年は 1 学級の小規模校である。平成 28 年度より、施設一体型小中一貫教育校となり、昨年度の 4 月からは小学校 1 年生から中学校 3 年生までの計 264 名が新校舎で一緒に過ごしている。本校が位置している生駒市高山は茶釜の里として有名であるが、過疎化による人口減少が続いており、年々児童数は減少している。しかしながら、社会人になり家業を継ぐために地元で働いたり、地元から通勤したりする住民もおり、保護者が卒業生であることが多い。そのため、学校に対して好意的で協力的な地域住民が多い。

2 児童生徒（園児）の教育課題

祖父母と同居し愛情に包まれて育てられ、優しく穏やかな子どもが多い。しかし競争心や負けん気の強さ、粘り強さに欠けていると感じることも多々ある。家庭では勉強を強いることがなく、塾に行く子も少ない。家庭学習は宿題のみという子が多く、全体的に家庭学習の時間が充分であるとは言い難い。児童らが、自ら学んだり探究したりする意欲を持つことができるようにするためには、家庭や地域の力を借りながら教育を進めていくことが重要であると考えます。

3 基本コンセプト（取組のねらいや考え方など）

学校や地域を愛し、地域に貢献する人材の育成

4 課題解決に向けた具体の取組

健全育成事業では校区内の老人会・自治会・民生委員・こども園・小中学校の代表者で構成された推進委員会で意見交流を行っている。本年度は、10 月 27 日に地域の文化祭を行った。育友会を含む音楽や踊りのグループやサークル、同好会の参加はもちろん、写真、華道、書道、落語等の発表、ワークショップや団体の活動紹介など、どの年代も楽しめるイベントであった。

学校創造推進事業では、地域の伝統工芸の茶釜に関する行事や授業を積極的に実施した。本校には、伝統とふるさとを大切にしたい気持ちを子ども達に育みたい、という地域住民や保護者の思いが詰まった広い茶室がある。そこで年間 7 回の茶道・作法教室、音楽の琴の体験授業や百人一首等を行っている。また、老人会との交流を実施し、一緒にグラウンドゴルフをしたり、昔の遊びや昔の地域の様子、暮らしぶりなどを教えてもらったりして、故郷を知る学習を行っている。



〈琴の体験授業〉



〈作法教室〉



〈茶道教室〉

5 「生駒北中学校区地域ぐるみの児童生徒健全育成事業推進協議会」について

(1) 組織の概要について

- ・ 学校の主担当者名及び職名：教諭 津村 貴一
- ・ 地域コーディネーターの人数：1人
- ・ 地域ボランティアの登録者数：56人
- ・ 開催時期及び開催回数：年間4回（年間3回と文化祭1回）
- ・ 構成メンバー及び人数 85名

自治会長、老人クラブ、民生児童委員、保護司、少年補導員、青少年指導委員、こども園小中代表、こども園小中育友会代表、地域安全推進委員

(2) 協議内容について

- ・ 地域の児童生徒の様子や小中一貫教育にかかわる諸問題について
- ・ 文化祭の運営について、及び各団体や自治会からの活動報告と情報交換

6 保護者・地域への情報発信について

学校通信を保護者へ配布すると共に、自治会へ回覧する。また、ホームページにも掲載し、閲覧できるようにした。

7 取組の成果と課題

(1) 成果

地域を愛し地域を大切に思う気持ちを育てるため、地域に暮らす方と共に地域行事や伝統行事を体験したり、地域の自然のよさを知ったりできるよう、どの学年も生活科や総合的な学習で取組を進めた。特に『茶釜の里』としての故郷を誇りに思う心を育むために茶道・作法の学習に力を入れた。地域のボランティアの力を借りて、和室の掃除や立ち居振る舞い、抹茶でのおもてなし等、親世代も熟知していないことを学習し、和の文化への興味関心を深めた。このような取組は、地域を愛し地域を大切に思う気持ちを児童らに育み、それが、ひいては地域に貢献できる児童の育成につながっているのではないかと考える。

(2) 課題

保護者や自治会、老人会などボランティアの方に支えられて本校の行事は成り立っている。魅力ある学校づくりに今後も地域や家庭と共に取り組んでいきたい。

(別紙様式)

平成30年度「学校・地域パートナーシップ事業」実施報告書

| 市町村名 | 学校名等 | 校長名 (文書作成者名) |
|------|-------|------------------|
| 生駒市 | 壱分小学校 | 原井 葉子 (石岡 秀俊) |

《地域学校協働活動》

1 学校、地域、児童生徒（園児）の実態

壱分小学校は、児童数744名の大規模校である。校区は古くからの町と新しい住宅地からなる。

本校の校区では、校・園、自治会、老人会、PTAなどの団体で組織された「やまびこネットワーク」が生駒市の市民自治協議会の第1号として認定されており、あいさつ運動や防災訓練、交流イベント等を通して、子どもの見守りや地域の連携を推進している。本校でも、「地域に開かれ、信頼される学校」をめざす学校像の一つに掲げ、学校と地域の連携・協働に取り組んでいる。

子どもや教育への関心が高く、学校に協力的な地域の中で見守られながら、子どもたちは日々、成長している。

2 学校と地域が共有している児童生徒（園児）の教育課題

児童は、学習面は比較的良好であり、これまで課題とされてきた規範意識や社会性の面でも近年、改善されつつある。しかし一方で、不登校傾向を示す児童や学習支援が必要な児童もいる。

3 基本コンセプト（取組のねらいや考え方など）

「あいさつでつなごう 地域とのきずな」

地域の「つながり・きずな」は、あいさつから始まる。あいさつの輪が、児童から家族へ、家族から隣近所へ、そして地域へと広がり日常化したとき、「子どもたちが健やかに育つまち」が生まれ、「地域のきずな」が生まれ、地域と共にある学校づくりができるのではないかと考える。

4 課題解決に向けた具体の取組

- ①毎月1回あいさつデーを持ち、地域の方たちとしっかり挨拶をし、日頃からも行う意識づけとする。
- ②地域の方に、行事や学習支援に入っていただくことで、地域の皆さんを知り、地域の皆さんに、感謝の気持ちを持つ。
- ③防災訓練や雪あそびを行い、地域の防災意識を高め、つながりを深める。



あいさつデー



昔あそび



雪あそび

5 「やまびこネットワーク」について

(1) 組織の概要について

- ・学校の主担当者名及び職名 教頭 石岡 秀俊
- ・地域コーディネーターの人数… 1人
- ・地域ボランティアの登録者数… 79人
- ・開催時期及び開催回数 2ヶ月に1回会議を実施。年間6回程度
- ・構成メンバー及び人数 30名

壱分小学校区自治会・民生児童委員・老人クラブ・壱分幼稚園PTA
壱分小学校PTA・大瀬中学校PTA・壱分小学校代表

(2) 協議内容について

- ・あいさつ運動の進め方。今後のあり方。
- ・子どもたちの様子について
- ・総合防災訓練、雪あそびについて

6 保護者・地域への情報発信について

- ・地域に、あいさつ運動についてのチラシを配布。
- ・地域に、総合防災訓練や雪あそびについてのチラシを配布。
- ・PTAの新聞・学校だより・学校ホームページに活動の様子を掲載。

7 取組の成果と課題 (2の教育課題の克服の検証)

(1) 成果

- ・子どもたちは、登下校の際、見守り隊の方々があいさつや声かけをして下さっているおかげで、以前よりしっかりあいさつできるようになり、校内でもその様子が見られる。
- ・地域の方々との交流は、子どもたちの意欲づけとなり、集中して、学習することができた。又、お礼のお手紙を渡すともものすごく感激していただき、さらに交流のつながりが深まっていくと感じた。

(2) 課題

- ・子ども自体は、地域の活動に対して受け身であり、何かをしてもらう活動が多い。子どもたちがもっと主体的に地域との関りを持てるような活動がないか、学校として考えていきたい。

(別添様式)

平成30年度「学校・地域パートナーシップ事業」実施報告書

| 市町村名 | 学校名等 | 校長名 (文書作成者名) |
|------|----------|-----------------|
| 生駒市 | 生駒南第二小学校 | 山中 治郎 |

《地域学校協働活動》

1 学校、地域、児童生徒の実態

本校は生駒市の南端に位置し、旧住宅地と新興住宅地が共存している校区である。平成31年2月1日現在の児童数は225名で、年々減少の傾向にある。「人権尊重の精神を基盤に、心豊かにたくましく生きる児童を育てる」を学校の教育目標に、なかまと共に考え高め合っていく楽しさを味わえるよう、各教科の授業や放課後学びタイム等を通して学力向上に向けた取組を進めている。

2 学校と地域が共有している児童生徒の教育課題

子どもたちは、明るく素直であるが、人間関係作りに弱い面が見られ、つながりを築くことが苦手である。そのため、しっかりと自分の気持ちを言葉にしながらも相手を思いやり、コミュニケーション力を高め、互いに支え合える学級集団から学校集団作りを進めていくことが課題である。

3 基本コンセプト（取組のねらいや考え方など）

本校を取り巻く地域は、生駒市南地区の運動会や地域ぐるみ南地区推進協議会の子育て交流会、あいさつタウン南のあいさつ運動、南地区民生・児童委員主催の夏休み映画鑑賞会、ふれあいのつどいなど、児童生徒の健全育成に熱心に取り組んでいる。本校では、「地域に育つ子ども」を核として、学校・保護者・地域が三位一体となり、学習や環境、安全の支援ボランティアとして学校を支える「二小学校コミュニティ協議会」を立ち上げ、地域に育つ子どもの豊かな成長を育むともに、地域の絆を深めることをねらいとしている。

4 課題解決に向けた具体の取組

具体的な取組として

学習支援…家庭科実習、昔遊び体験、クラブ活動等の補助、絵本の読み聞かせ
環境支援…学級園や校地内草刈り、樹木伐採、栽培活動援助、七夕竹切り出し
安全支援…登下校見守り、交差点立哨指導、防犯見守りパトロール、校区探検の付き添い

また、運動会では地域競技「ジェンカ」を実施。11月の防災訓練の炊き出し訓練では、地域から20名以上の協力を得て、豚汁とアルファ化米のおにぎり作りなどを行っている。

草刈り作業



運動会地域競技



防災訓練炊き出し



5 「二小学校コミュニティ協議会」について

(1) 組織の概要について

- ・学校の主担当者名及び職名 校長 山中治郎 教頭 松井功
- ・地域コーディネーターの人数… 2人
- ・地域ボランティアの登録者数… 30人
- ・開催時期及び開催回数 3回(4月26日・8月23日・10月15日)
- ・構成メンバー及び人数 校区内自治会会長(8) 校区内老人会会長(7)
民生児童委員(11) 小学校教職員(19)
学校ボランティア(4)

(2) 協議内容について

- ・今年度のボランティア活動についての話し合い
- ・草刈り作業についての話し合い
- ・運動会での地域競技についての話し合い
- ・防災訓練での炊き出しの準備物や地域ボランティアの参加人数の確認と役割分担 等

6 保護者・地域への情報発信について

毎月初めに発行している学校だよりや随時更新している学校のホームページで情報の発信をしている。学校だよりは、児童全家庭と、各自治会を通して地域にも配布している。

7 取組の成果と課題(2の教育課題の克服の検証)

(1) 成果

あいさつ運動や除草作業、様々な学習支援などを通じて、地域の方々と児童がコミュニケーションをとることができた。また、絵本の読み聞かせボランティアも2年目に入り、軌道に乗った。運動会での地域競技「ジェンカ」では、保護者・児童・教職員・来賓や地域の方々も一緒に楽しくダンスを踊ることができた。また、防災訓練での炊き出しでは、たくさんの地域の方が朝早くから学校に来て600食の豚汁とアルファ化米のおにぎりを作り、参加した保護者や地域の人が、家族で楽しそうに中庭で昼食を食べることができた。

(2) 課題

子育てや仕事に忙しい保護者の積極的な参加を促していくこと、学校・保護者・地域の三者が連携を深めていく方法や体制を作ることが課題である。

(別添様式)

平成30年度「学校・地域パートナーシップ事業」実施報告書

| 市町村名 | 学校名等 | 校長名 |
|------|-------|------|
| 生駒市 | 光明中学校 | 上田 薫 |

《学校支援》

- 1 学校、地域、児童生徒（園児）の実態
1小1中の校区で、生徒児童だけでなく、保護者や地域もお互いをよく知っている仲である。また、旧家と新興住宅地が混ざった校区で、仕事で忙しい家庭も多い。
- 2 児童生徒（園児）の教育課題
学習に対する意識が高く、非常に前向きに取り組んでいる。
- 3 基本コンセプト（取組のねらいや考え方など）
学校、園、家庭、地域の連携を密にし、一貫した生徒指導の充実を図る。
- 4 課題解決に向けた具体の取組

見守り活動



Wakuwaku 交流会



推進委員会



5 「光明中学校区地域ぐるみ推進協議会」について

(1) 組織の概要について

- ・ 学校の主担当者名及び職名
推進委員長：林 佑一郎
- ・ 地域コーディネーターの人数… 1 人
- ・ 地域ボランティアの登録者数… 1 1 人
- ・ 開催時期及び開催回数
推進委員会年 2 回
Wakuwaku 交流会 1 回
地域ぐるみニュース発行
- ・ 構成メンバー及び人数… 9 3 人

(2) 協議内容について

- ・ 各団体より、見守り活動、健全育成パトロール、挨拶運動などの取組みについての報告
- ・ 子どもたちの安全確保やふれあい活動について引き続き力を入れていくことの確認
- ・ 校区内の子どもの様子等についての情報交換

6 保護者・地域への情報発信について

推進協議会や地域ぐるみニュース発行等でおこなっている。

7 取組の成果と課題

(1) 成果

地域と学校・園の情報交換を円滑におこなうことができた。また、児童生徒の登下校する校区内の危険箇所についての討論をおこない、市や県に働きかけている。

(2) 課題

登下校における危険箇所については、まだまだ解決していないことも多く、継続的に取り組む必要がある。